

2019年度

カリキュラム編成書

デジタルミュージック学科

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

作成日： 2019年 4月1日

作成者： 村山 秀樹

学 科 名	デジタルミュージック科
コース名	
所属分野	クリエイティブ分野

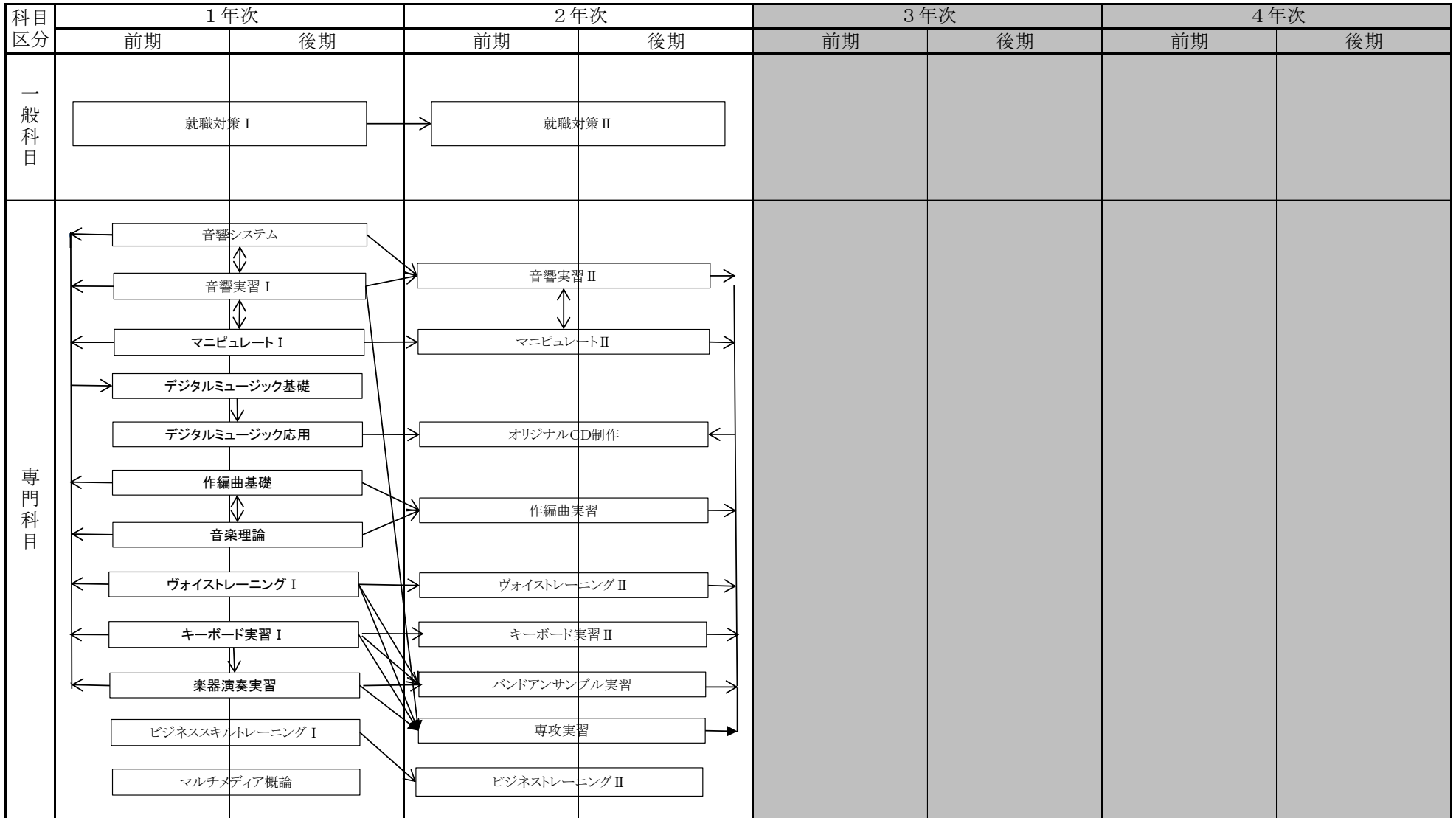
(各行は適宜増減のこと)

人材ニーズ	現在の音楽制作においてパソコン上でのデジタル処理制作は必要不可欠であり、その為の知識が必要であり幅広い音楽知識や楽器に関する知識技術も又必要である、よって音楽制作の場では今まで以上に幅広い知識や技術又柔軟な考えを持ち合わせている人材が求められている。
育成人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲制作依頼においてパソコン上での楽曲作成や作曲、編曲ができる人材 ・音響技術者としてMA技術者、コンサート、録音スタジオスタッフの人材 ・その他音楽業界で幅広く活躍できる人材
主な教育内容 と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽制作ソフト …シーケンスソフト、Pro Toolsを高水準で操作できオリジナリティー溢れる楽曲制作ができるようにする ・音響技術 …ミキサー操作や波形編集ソフトを高水準で操作できるようにする ・ヴォイストレーニング …楽曲への仮歌入れ又はヴォーカリストとしての水準を持てるようにする ・音楽理論 …楽曲依頼作成に対する幅広い音楽知識を有するようになる ・楽器演奏 …鍵盤、ギター、ベース、ドラムの基礎楽器の特性を知り楽曲制作に生かし又、演奏者としても基本演奏ができるようにする ・作編曲 …幅広いジャンルの作曲や編曲ができるようになる ・マニピレート …リアリティーの有る音作りや楽曲に合う音色を作れるようになる
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・MIDI検定 ・サウンドレコーディング技術認定 ・舞台機構調整技能士 ・マイクロソフトオフィススペシャリスト ・マルチメディア検定
目指す職種	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームサウンドクリエイター ・サウンドプログラマー ・MAスタッフ ・音響技術者 ・作曲、編曲者 ・楽器販売員
業界や外部 専門家との 連携体制	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生による現在携わっている音楽関係の仕事に関する技術セミナー ・楽器メーカーの新製品などの長期試奏 <p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器メーカーと連携したセミナーやゲーム関係会社によるゲームサウンドセミナー
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータでの楽曲制作を中心にそれに伴う作曲法、編集技術、楽器演奏、音響技術その他色々なオリジナルCD制作までの知識技術を習得し幅広く業界で活躍できる ・卒業時にオリジナル曲をライブで演奏又、ゲーム科のゲーム作品に楽曲を付けるコラボレーション実習をしている
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・最新で豊富なコンピュータ音楽制作環境を中心として、多数のギター、ベース、管・木管楽器を取りそろえ又、演奏練習や録音スタジオの完備 ・不定期に企業からの楽曲依頼制作が有る ・職業実践専門課程の認定を受ける(平成27年2月)

科目関連図

学科名	デジタルミュージック科
コース名	

作成日： 2019年 4月1日



シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	近藤 孝之、岡崎 和行、大坂 祥郎、升澤 満夫	実 務 経 験			
目的 / 概要	習熟度に応じたクラスを編成し、一般常識や適性試験対策を中心に学習します。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学びます。				
到達目標	就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につける。				
目標資格	特になし				
前提知識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		※別紙 就職対策 I (別紙①授業計画)			
使 用 教 材	(前期)「専門学校生のための就職筆記試験対策問題集」(ウイネット) (後期)「聞いたらわかった SPI」(一ツ橋書店)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの学習目標を掴み、時間内に理解できるようにする。 ・理解できなかった所や復習のため、eラーニングを活用し理解度を高める。 ・ノートをきちんと取り、復習や予習に活かす。 ・以上でも解らなかった所は、休み時間や放課後、先生に聞き理解できるようにする。 ・(卒業前学年は)履歴書やエントリーシートの書き方を覚える。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験の成績(年4回実施) ・授業に取り組む姿勢 などを総合的に評価する。 				

就 職 対 策 I

作成日：2019年4月1日

< 前 期 >

授業	第1章 国語	第3章 社会	第2章 数学
	開始10分間で問題集を学習・確認		後半60分間で講義・演習
1	授業の進め方、実力テストの解答・解説		
2	Exercise 1・2 漢字の読み(1)/(2)	Exercise 1/2 日本の地理(1)/日本の地理(2)	Exercise 1 式と計算(1)
3	Exercise 3/4 漢字の読み(3)/書き取り(1)	Exercise 3/4 日本の地理(3)/世界地理(1)	Exercise 2 式と計算(2)
4	Exercise 5/6 漢字の書き取り(2)/同音異義語(1)	Exercise 5/6 世界地理(2)/世界の地理(3)	Exercise 3 速さの基礎
5	Exercise 7/8 同音異義語(2)/(3)	Exercise 7/8 日本史(1)/日本史(2)	Exercise 4 旅人算
6	Exercise 9 同訓異字	Exercise 9 日本史(3) 近現代史	Exercise 5 通過算
7	Exercise 10/11 語句の意味・関連(1)/(2)	Exercise 10 世界史(1) 近代以前の西洋史	Exercise 6 流水算
8	Exercise 12 同意語・類義語	Exercise 11 世界史(2) 近代以前の東洋史	Exercise 7 割合の基礎
9	Exercise 13 反対語(対義語)	Exercise 12 世界史(3) 近代史	Exercise 8 濃度
10	Exercise 14 四字熟語(1)書き取り、文字補充	Exercise 13 政治経済(1) 日本国憲法	Exercise 9 損益算
11	Exercise 15 四字熟語(2)選択	Exercise 14 政治経済(2) 三権分立	Exercise 10 仕事算
12	Exercise 16/17 ことわざ(1)/(2)	Exercise 15 政治経済(3) 内閣と裁判所	Exercise 11 虫食い算
13	Exercise 18 慣用句・故事成語	Exercise 16 政治経済(4) 経済の仕組みと～	Exercise 12 順列・確率
14	Exercise 19 敬語	Exercise 17 政治経済(5) 景気の循環と～	Exercise 13 集合
15	Exercise 20 適語補充	Exercise 18 現代社会 社会保障制度	Exercise 14 推理
16	Exercise 21 文章の並び替え・文章整序	Exercise 19 日本・世界の思想・宗教	Exercise 15 図形と角度
17	Exercise 22 文章読解	Exercise 20 日本・世界の芸術家	Exercise 16 面積・体積
18	(予備)	(予備)	Exercise 17 展開図

< 後 期 >

授業	言語分野	非言語分野
	開始10分間で問題集を自習	後半60分間で講義
1	SPI2の概要	1. 命題
2	1. 同意語	4. 位置と方角
3	2. 反意語	7. 年齢算
4	3. 用途	8. 植木算
5	4. 行為	9. 鶴亀算
6	5. 包含	12. 水槽算
7	6. 原料	17. 代金の精算
8	7. ことわざ・慣用句	20. 数列
9	8. 敬語	21. N進数
10	9. 語句の意味	22. 図形の証明
11	10. 多義語	24. 物の流れと比率
12	11. 文法	25. ブラックボックス
13	12. 空欄補充	26. フローチャート
14	13. 文章整序	27. 図表の読み取り
15	14. 長文読解	28. てこ・モーメント
16		29. 滑車
17		30. 物体の運動
18		31. 電気
19		32. グラフの領域
20		33. 新傾向問題

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	デジタルミュージック基礎			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コ マ 数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	村山 秀樹	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>・楽曲作成のための理論を学び その知識を基に作曲編曲を実践する事により音楽を職業とする(主に音楽製作 プロミュージシャン 音響担当者など)人材の育成を目指す更にはMIDI検定の取得を目的とする</p> <p>1 基礎理論(楽譜の読み方 記号の理解) 2 音程 3 調と音階 4 コード 5 調と音階とコードの関連 6 テンション 7 コード進行 コードパターン コードスケール 8 MIDI検定対策 9 メロディー作り 10 メロディーへのコード付け *進行具合で各項目が重複し、理解度向上をはかる事あり</p>				
到 達 目 標	<p>・デジタルミュージックの中心的な作業であるコンピュータミュージックの知識を広げ 実習を重ねる事により社会的に通じる楽曲の作成録音</p>				
目 標 資 格	MIDI検定				
前 提 知 識	<p>・最低限度のDTM経験が望ましいが 経験が無くても問題なし</p>				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	・音楽作成ソフトの理解(2コマ)			
	4	・ミキサー等必要機材の操作(4コマ)			
	60	・実際にソフトを駆使した楽曲の作成 (60コマ)			
	10	・MIDI検定と連動する知識を学ぶ(10コマ)			
計	76				
使 用 教 材	<p>・担当者作成のプリント/実習室設備</p>				
履 修 上 の 意 注	<p>・音楽知識とDTMの融合を促す</p>				
成 績 評 価 方 法	<p>・定期的な課題作品の提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	デジタルミュージック応用			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コ マ 数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	白鳥 徹 村山 秀樹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> デジタルミュージックの中心的な作業であるコンピュータミュージックの知識を広げ 実習を重ねる事により社会的に通じる楽曲の作成録音 音楽作成ソフトの理解 ミキサー等必要機材の操作 実際にソフトを駆使した楽曲の作成 MIDI検定と連動する知識を学ぶ *デジタルミュージック基礎の重複や課題のデータ作成を通して知識、技術を習得 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> デジタルミュージックの中心的な作業であるコンピュータミュージックの知識を広げ 実習を重ねる事により社会的に通じる楽曲の作成録音 				
目 標 資 格	<ul style="list-style-type: none"> MIDI検定 				
前 提 知 識	<ul style="list-style-type: none"> 最低限度のDTM経験が望ましいが 経験が無くても問題なし 				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	<ul style="list-style-type: none"> 音楽作成ソフトの理解 			
	4	<ul style="list-style-type: none"> ミキサー等必要機材の操作 			
	60	<ul style="list-style-type: none"> 実際にソフトを駆使した楽曲の作成 			
	10	<ul style="list-style-type: none"> MIDI検定と連動する知識を学ぶ 			
計	76				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> 担当者作成のプリント/実習室設備 				
履 修 上 の 注	<ul style="list-style-type: none"> 音楽知識とDTMの融合を促す 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な課題作品の提出・・・70% 授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する 				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科			
コ ー ス 名				
科 目 名	作編曲基礎		科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数
担 当 教 員	桜井 力男	実 務 経 験	アーティストのバックバンド・レコーディング及び楽曲提供・編曲に従事。又音楽教室で後進の指導にあたる。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。	
目 的 / 概 要	<p>・楽曲作成のための理論を学び その知識を基に作曲編曲を実践する事により音楽を職業とする(主に音楽製作 プロミュージシャン 音響担当者など)人材の育成を目指す更にはMIDI検定の取得を目的とする</p> <p>1 基礎理論(楽譜の読み方 記号の理解) 2 音程 3 調と音階 4 コード 5 調と音階とコードの関連 6 テンション 7 コード進行 コードパターン コードスケール 8 MIDI検定対策 9 メロディー作り 10 メロディーへのコード付け *進行具合で各項目が重複し、理解度向上をはかる事あり</p>			
到 達 目 標	<p>・楽曲作成のための理論を学び その知識を基に作曲編曲を実践する事により音楽を職業とする(主に音楽製作 プロミュージシャン 音響担当者など)人材の育成を目指す更にはMIDI検定 音楽検定の取得を目的とする</p>			
目 標 資 格	MIDI検定			
前 提 知 識	・最低限度の五線譜読解力が望ましいが 読解力が無くても問題なし			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	2	1 基礎理論(楽譜の読み方 記号の理解)		
	2	2 音程		
	2	3 調と音階		
	2	4 コード		
	2	5 調と音階とコードの関連		
	2	6 テンション		
	20	7 コード進行 コードパターン コードスケール		
	6	9 MIDI検定対策		
	20	10 メロディー作り		
	18	11 メロディーへのコード付け		
計	76			
使 用 教 材	・音楽理論書 MIDI検定ガイド書 実習設備			
履 修 上 の 意 注	<p>・他の科目との関連を重視しながら時代に後れないような 講義に十分な配慮が必要である</p> <p>・生徒各自の音楽経験知識の差をまず無くす</p> <p>・音楽体験を通じての人間性の向上(特に積極性)にも配慮する</p>			
成 績 評 価 の 方 法	<p>・定期的な課題作品の提出・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	マニピュレートI(企業連携科目)			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	白鳥 徹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	①アナログシンセサイザーの増幅器、周波数変換、その他の仕組みや操作法の修得 ②デジタルシンセサイザーの増幅器、周波数変換等の仕組みや操作法の修得とアナログ機器との相違点の理解 ③DAWソフト上でのMIDIコントローラを利用した定位変換、増幅可変器などの仕組みや操作法の修得 ④多チャンネルのDTM音源を使用した各種音色の調整法の修得を目的 ・期末には、企業連携校講師が成績評価を行い、それを踏まえ担任教員が単位認定を行う。				
到 達 目 標	・シンセサイザーの知識・技術を修得する。 ・楽器の特性、曲に合った基本音色を作成できるようにする。 ・基本楽器の自身のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	計	38	・アナログシンセサイザーについての知識を習得する。 ・デジタルシンセサイザーについての知識を習得する。 ・MIDIについて知識を習得する。 ・DAWソフト上でのMIDIコントローラについて学習する。 ・多チャンネルのDTM音源エディットについて各種音色毎の操作法、知識を習得する。 ※実習開始前に、担当教員が実習以前の授業で指導した知識・技術の説明を行い、その後有限会社サチオン担当講師が専門性の高い技術的な指導等を一定期間行う。		
使 用 教 材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー				
履 修 上 の 意 注	・オリジナルCD制作において欠かせない基本的な技術、知識でイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	・企業連携実習による課題提出評価・・・70% ・授業に取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	楽器演奏実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コ マ 数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	桜井 力男	実 務 経 験	アーティストのバックバンド・レコーディング及び楽曲提供・編曲に従事。又音楽教室で後進の指導にあたる。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> デジタルミュージックを行う上での最低限知っておくべき楽器の知識と技術を修得すること ある程度の知識と技術がある楽器は更なる向上を目指す 主にバンドで使われるギター、ベース、ドラム、キーボードの基礎知識 楽曲を使用してのアンサンブル練習 ギター、ベースのスケール練習 ドラムを使用してのリズムトレーニング ギター、ベース、キーボードによるコード演奏 コードによるベースラインの学習 メロディーと伴奏 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 経験、未経験を問わずそれぞれの楽器を演奏できるようにする 音楽理論を楽器演奏に応用する 楽器演奏で学習したことをコンピュータ上で再現、応用できるようにする アンサンブルを通してグループ活動による創造活動ができるようにする 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	・初歩的な読譜力				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	76	<ul style="list-style-type: none"> ○主にバンドで使われるギター、ベース、ドラム、キーボードの基礎知識 ・ギター、ベースのスケール練習 ・ドラムを使用してのリズムトレーニング ・ギター、ベース、キーボードによるコード演奏、特にコードによるベースラインの学習 ○楽曲を使用してのアンサンブル練習 ○メロディーと伴奏(76 コマ中上記の内容を平行で学習習得) 			
計	76				
使 用 教 材	・ギター、ベース、ドラムの教則本 ・設備楽器 ・個人所有楽器使用可				
履 修 上 の 注 意	・遊び的な感覚にならないように ・授業時間以外での練習の重要性				
成 績 評 価 の 方 法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組み姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	キーボード実習 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	工藤 さち子	実 務 経 験	楽器メーカーの音楽講師として、ピアノ・エレクトーンを指導、その後プレイヤーとして活動。現在はボーカル、各種楽器を幅広く指導する音楽教室を運営。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽にとって最も必要な楽器と言うべきキーボード(ピアノ)演奏をレベルアップさせ音楽活動を積極的にさせる ・コンピュータミュージックに欠かせない「打ち込み」をスムーズにできるようレベルアップさせる 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なポピュラー楽曲の五線譜を観て初心者は中級レベル、経験者は更なるレベルUPし演奏できるようにする 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば演奏経験				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	計	2	*音階 コード 楽譜による演奏		
		6	・ドレミ(階名)で演奏		
		6	・片手でのメロディー弾き		
		24	・コードを覚える 鍵盤で押さえる(弾く)		
		38	・両手での楽譜演奏		
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な楽譜(ポピュラー中心) ・実習設備のシンセサイザー 				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・気長にあせらず演奏能力を高めさせる 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	ヴォイストレーニング I	科 目 分 類	独自 / 共通		
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	高橋 寿和	実 務 経 験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<p>楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ 発声練習を基礎にソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員、歌う事よっての積極性の向上 又聴音力の実力を養う</p> <p>・ソルフェージュ(視唱 イヤートレーニング) ヴォイストレーニング 歌唱力アップ コーラス 耳コピー</p> <p>*1・2・3項目は毎時実施で習得、項目4中でも実施 1 ドレミ(階名)で視唱 2 ヴォイストレーニング 3 イヤートレーニング(耳コピー) 4 邦楽(ポップス)のヒット曲を歌う</p>				
到 達 目 標	<p>・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員 ・耳コピーが出来るようになる</p>				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	・ある程度の読譜力 音楽理論 無くても可				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	28	<p>・ソルフェージュ(視唱 イヤートレーニング) ヴォイストレーニング 歌唱力アップ コーラス 耳コピー</p> <p>A 1～10項目は毎時実施で習得、項目B中でも実施 1 ドレミ(階名)で視唱 2 ヴォイストレーニング 3 イヤートレーニング(耳コピー) 4 胸式呼吸・腹式呼吸の使い方 5 地声と裏声の使い方の違い 6 声量の上げ方、ロングトーンの伸ばし方 7 声帯の筋肉組織の仕組み 8 甲状軟骨、輪状軟骨の筋力トレーニング 9 口腔や舌腔の筋力トレーニング 10 喉仏(喉頭蓋)や胸骨甲状筋のトレーニング</p>			
計	10 38	B 邦楽(ポップス)のヒット曲を歌う			
使 用 教 材	・ヴォイストレーニング用テキスト・キーボード ギターなどの楽器・ミキサーなどの音響機材				
履 修 上 の 意 注	<p>・大きな声を出すことに積極的に取り組む ・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み ・卒業ライブのレベルアップを謀る</p>				
成 績 評 価 の 方 法	・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	音響システム			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	村山 秀樹	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台機構調整技能検定に合格し公共機関、その他の音響を仕事にしている職場にも雇用してもらえるチャンスを得る、又演奏者としての的確な要望をスタッフに指示できる知識を得る ・劇場、舞台美術、技術、照明 ・ホール音響基礎、運用 ・映像技術概論 ・ホール、劇場に関する法規 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台音響の知識を広く身につけ舞台設置、PA操作等の実際に活かす ・舞台機構調整技能士合格を目指す 				
目 標 資 格	・舞台音響技術概論				
前 提 知 識	・特になし				
授 業 計 画 計	コマ数	授 業 内 容			
	18	・劇場、舞台美術、技術、照明			
	26	・ホール音響基礎、運用			
	20	・映像技術概論			
	12	・ホール、劇場に関する法規			
計	76				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台音響技術概論 ・実習設備 				
履 修 上 の 意 注	・楽器演奏実習、音響技術等で養った演奏能力、PA技術等の融合を促す				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な試験・・・80% ・授業への取り組む姿勢・・・20% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	音響実習 I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	白鳥 徹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なミキサーの知識を学び、2年生のライブ実習をまかなえるようにする ・DTM実習時に的確な機材操作ができる力をつける ・基本的なハード、ソフト名称を覚える。・機材接続の基礎知識を習得する。・教室機材説明。 ・アナログミキサーの仕組み/ デジタルミキサーの仕組み ・エフェクターについて / 接続、音出し ・アナログミキサーの仕組み/ デジタルミキサーの仕組み ・エフェクターについて / 接続、音出し ・BGM+マイクを使ったテスト ・中間ライブに関する役割説明 ・中間ライブ実施 ・DTMデータを使ったミキシング ・卒業ライブへの取り組み ・卒業ライブ実施でPA操作等習得 ・舞台機構調整技能士合格を目指す 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・BGM+マイク1本程度のバランス取りを確実にこなせるようにする。 機材接続において、入力から出力までの流れを理解できるようにする。 2年生ライブ実習において全体の流れを把握できるようにする。 				
目 標 資 格	・舞台機構技能検定				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なハード、ソフト名称を覚える。 機材接続の基礎知識を習得する。 ・教室機材説明 			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログミキサーの仕組み/ デジタルミキサーの仕組み 			
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・エフェクターについて / 接続、音出し ○ BGM+マイクを使ったテスト 			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中間ライブに関する役割説明 ・中間ライブ実施 			
	20	<ul style="list-style-type: none"> ・DTMデータを使ったミキシング 			
計	6	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業ライブへの取り組み ・卒業ライブ実施でPA操作等習得 			
38					
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・DTM/DAWソフト、音源 アナログミキサー デジタルミキサー マイクロフォン ライブ実習機材 その他音響機器 				
履 修 上 の 意	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器等のレコーディングに関しては2年次に必要に応じ行い1年次には基本的に行わない。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する 				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	音楽理論			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	青木 大志	実 務 経 験	ビッグバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽製作、バンド等における活動においてオリジナル曲の作曲、編曲を専門家として独自に行える音楽の知識の習得 ・音部記号と音名 ・音程 ・調と音階 ・コードの構成 ・テンション ・ダイアトニック・コード ・平行・同主調関係 ・楽曲分析 				
到 達 目 標	音楽活動においてオリジナル曲の作曲、編曲を独自に行える音楽の知識の基礎を習得				
目 標 資 格	・特になし				
前 提 知 識	小・中学校レベルの音楽の知識、無くとも可				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	・音部記号と音名			
	1	・音程			
	2	・調と音階			
	4	・コードの構成			
	2	・テンション			
	14	・ダイアトニック・コード			
	7	・平行・同主調関係			
計	6	・楽曲分析			
	38				
使 用 教 材	・新音楽理論ワークブック				
履 修 上 の 注 意	・音楽理論を疎かにすると独自の曲作りがパターン化するので難しくても根気よく知識を習得し、尚且つ知識だけに終わらせず実践に活かすこと。				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的考査・・・80% ・日ごろの授業態度・・・20% を総合的に判断				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	マルチメディア概論			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コ マ 数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	村山 秀樹	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>・マルチメディアは文字、音声、静止画、動画などをデジタル技術で融合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの生活に深く関わってきている。マルチメディア技術の根幹をなすコンピュータやその周辺機器、インターネット、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を修得することを目的としてマルチメディア検定ベーシック合格を目指す。</p> <p>・マルチメディアの特徴 ・マルチメディアの中核をなすパーソナルコンピュータ ・コンテンツ制作のためのメディア処理 ・新たなインフラとなったインターネット ・インターネットで提供されるサービス ・急速に伸びるインターネットビジネス ・マルチメディア端末と進化する携帯電話 ・家庭のマルチメディア化 ・日常生活に広がるマルチメディア ・ネットワークセキュリティと著作権</p>				
到 達 目 標	<p>・社会や生活の場で必要なインターネットやマルチメディアに関するコンテンツや技術、システムや機器、コミュニケーション技術に関する知識や能力について修得し、マルチメディア検定の合格を目指します。</p>				
目 標 資 格	マルチメディア検定ベーシック				
前 提 知 識	・高等学校の程度の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		5	・マルチメディアの特徴		
		3	・マルチメディアの中核をなすパーソナルコンピュータ		
		3	・コンテンツ制作のためのメディア処理		
		3	・新たなインフラとなったインターネット		
		5	・インターネットで提供されるサービス		
		3	・急速に伸びるインターネットビジネス		
		4	・マルチメディア端末と進化する携帯電話		
		4	・家庭のマルチメディア化		
		3	・日常生活に広がるマルチメディア		
		5	・ネットワークセキュリティと著作権		
計		38	・マルチメディア社会		
使 用 教 材	・入門マルチメディア(CG-ARTS協会) ・配布プリント				
履 修 上 の 意 注	<p>・授業は必要に応じ、板書したりプリント等を利用するので、ノートを用意する ・各項目は独立して学習が終わるのではなく、関連を持ちながら同時に影響あっていくので十分留意して学習すること ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をすること</p>				
成 績 評 価 の 方 法	<p>・授業への取り組み姿勢・・・20% ・定期考査・・・80%などを中心に総合的に評価する。</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	ビジネススキルトレーニング I			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	村山 秀樹	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・情報関連科目を学習するために必要なWindowsの基本操作を身につける。 ・PCの普及に伴い、家庭や学校でインターネットを利用する機会が増加している。また、携帯電話からもインターネット上のコンテンツを閲覧することが容易な時代となり、近年では学生がネット上で思わぬ被害を受けたり、知らず知らずに加害者になったりするケースや、小中学生においては、新しいメディアとして利用方法を誤り、自殺や殺人に結びつく事態も発生している。 ・「情報倫理」を学習することにより、これからのネットワーク社会を生きていくために、何が正しく何が悪いのかを判断できるような知識を身につけることを目的とする。 ・Power Pointソフトの基礎を身につける。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧方法を知り、検索エンジンを使って必要な情報をインターネットから得ることができる ・学生用グループウェアサービスを知り、それを使ってEメールを利用できる ・キーボード操作をブラインドタッチで行うことができる ・インターネット社会の「光」と「影」の両面を理解する ・インターネット社会で守るべきルールやマナーを理解する ・アカウントやパスワードの取り扱いと管理のしかたを理解する ・個人情報やプライバシーの意義を理解し、その適切な取扱いについて考える ・著作物の文化的意義を理解し、著作権を尊重する態度を身につける 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	・高等学校の情報科目履修程度の知識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	1	・インターネットリテラシー			
	1	・検索ソフト、学生用HP(グループウェア、電子メール)の利用方法			
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報倫理:Infoss e-Learning ・用語集に掲載の106語は完璧に理解する ・草木に掲載のナエツグアストは満点を取るまで繰り返し ・修了テスト(1～5)は正解率80%取得を目標とする 			
	6	・ケーススタディ×8分野			
	6	・新聞記事集×12分野			
計	20	・タッチタイピングの学習			
	38	・初心者用テキストを使い各自の進捗状況で「Power Pointソフト」修得			
使 用 教 材	・Infoss e-Learning:情報倫理 ・ 初心者用テキスト Power Poin20△△				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意する ・e-Learningは「見ただけ」「読んだだけ」では効果なし！大切なのはノートにまとめるなどして理解を深める工夫が必要 ・グループディスカッションでは、積極的に自分の意見を述べること ・「継続は力なり」・・・タッチタイピングやPower Point学習は少しの時間でも毎日続けることが上達の近道！ 				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査・・・70% ・e-Learningの終了テスト・・・10% ・授業への取り組む姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科			
コ ー ス 名				
科 目 名	就職対策Ⅱ	科 目 分 類	独自 / 共通	
履 修 年 次	2	履 修 学 期	前期	授 業 形 態
コ マ 数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数
担 当 教 員	村山 秀樹	実 務 経 験		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験に際し内定を取れるように知識・技術を得る ・主に面接力をつける 			
到 達 目 標	就職活動するにあたり実力を思う存分発揮出来るようにし 就職内定を受けられるようにする			
目 標 資 格	特になし			
前 提 知 識	特になし			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	25	<ul style="list-style-type: none"> ・面接実地訓練(25コマ) 個人面接 グループ面接 		
	1	・お辞儀の仕方		
	1	・歩き方		
	2	・受け答え		
	1	・入退室の仕方		
計	8	・一般常識		
計	38			
使 用 教 材	特になし(配布物等)			
履 修 上 の 注 意	自分の面接時での動きなどの癖等の指摘を受けたなら極力直す努力を至る所で気がついたら実行する			
成 績 評 価 の 方 法	定期的考査・・・80% 授業態度・・・20% など総合的に判断			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	オリジナルCD製作			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	5/7	総授業コマ数	228	単 位 数	12
担 当 教 員	白鳥 徹 村山 秀樹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の集大成としてのオリジナルCDの作成 ・映像メディア等ニーズに合ったオリジナル曲作りを行えるようにする ・いろいろな機材、ソフト等の融合を学び楽曲制作を行えるようにする 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間で学んだ音楽知識やソフト、キーボード、ギターその他楽器などの実習で体得した楽器演奏やボーカルを加えたオリジナル楽曲製作の集大成としてCDアルバムの製作を行う ・各学科等制作作品に合ったオリジナル曲作り制作 ・卒業ライブでの演奏曲の作詞、作曲、編曲制作 				
目 標 資 格					
前 提 知 識	・1年次で学んだ音楽理論 作編曲知識 DTM知識 音響技術 楽器演奏 バンド活動 歌唱力				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	8 220	<ul style="list-style-type: none"> ・PRO TOOLSを駆使してのCD製作 授業は各制作平行で進行する 1 PRO TOOLSの操作を学ぶ 2 課題楽曲の製作 3 映像と音楽のシンクロする楽曲製作 4 作詞、作曲をコンビ同士で作成 5 CDアルバム製作 			
	計 228				
使 用 教 材	・PRO TOOLS SOL その他楽曲制作のための各種ソフト ・各音楽作成機器 ・各楽器				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通じて制作作業を続けないと達成が難しい ・いろいろな優秀な機材を駆使して満足の行く作品が出来上がるのは努力が伴うので努力をしその喜びも学ぶ事 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	作編曲実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	桜井 力男 村山 秀樹	実 務 経 験	アーティストのバックバンド・レコーディング及び楽曲提供・編曲に従事。又音楽教室で後進の指導にあたる。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターによる音楽製作、又バンド等による演奏活動などにおいて、既存の曲・オリジナル曲の作曲、編曲を専門家として独自に行える音楽の知識、技術の習得 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が正しい知識を身につけ、オリジナル性溢れる楽曲を制作、演奏し生涯にわたりそれぞれの分野で充実した活動が行える為の基盤作りをする 				
目 標 資 格	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 				
前 提 知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・音階 調性 三和音(トライアード)程度の基礎知識 				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6 6 6 6 14 計 38	<ul style="list-style-type: none"> ・各種楽器(弦楽器、管楽器、打楽器)の基礎知識 ・ソロから大編成(ビッグバンド)のアレンジ ・様々な音楽スタイル(ジャズ、ラテン、etc)でのアレンジ ・デジタルな音楽とヒューマンな音楽の融合 ・オリジナル曲の作曲、編曲のバンド演奏及びDAWソフトでの作品制作 			
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・実践コード・ワーク ・各楽器 ・DTM/DAWソフト 				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・理論を知識として身に付けるだけでなく実際の現場で役に立つようにすること 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な考査・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	マニピュレートII			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	白鳥 徹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・シンセサイザーの応用的仕組みを学ぶ。 ・シンセサイザーの音色を作成できる力をつける 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の特性、曲に合った音色を作成できるようにする。 ・自分のイメージに合った音を的確に作成できるようにする。 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	・機種によるシンセサイザーの違いを理解する。			
	2	・複数の楽器を使用したデータの作成。			
	4	・高度なデータ作成方法を習得する。			
	2	・各種シンセサイザーの仕組みについて。			
	2	・波形データにしてからの音色作成について。			
	2	・MIDIデータと波形データのミックスについて。			
計	24	・CD製作			
	38				
使 用 教 材	・DTM/DAWソフト、音源 各種シンセサイザー				
履 修 上 の 注	・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な作品提出・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30% などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	バンドアンサンブル実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	青木 大志 村山 秀樹	実 務 経 験	ビッグバンドジャズから演歌の伴奏まで多くのアーティストをベース奏者としてサポート。音楽教室で後進の指導にもあたる。又バックトラックの作成・アレンジ・楽譜作成のアーティストサポートでも活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> 各自同一楽器にこだわることなく複数バンドで演奏し楽器の表現力や楽曲の編曲力やグルーブ感の向上を目ざし総合音楽性をレベルアップさせる 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 楽器演奏実習やボーカルトレーニング・作編曲能力の知識を生かしバンドを組み表現し総合音楽性向上を図り創造活動ができるようにする 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	初歩的な読譜力 音楽理論 楽器演奏 コミュニケーション能力				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	36	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、スタジオでのバンド演奏 			
	78	<ul style="list-style-type: none"> 既存楽曲の再編成、再編曲の学習 			
	計 114	<ul style="list-style-type: none"> オリジナル曲の編成、編曲の学習 			
使 用 教 材	キーボード ギター ベース ドラム その他楽曲表現に必要な楽器・ミキサーなどの音響機材				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> バンドは共同作業なので自己意見を押し付けず他の人とのコミュニケーションを円滑にはかる 一つの楽器だけに固執せず複数の楽器で演奏する 既存楽曲のコピーは練習用としオリジナル曲や既存楽曲の独自の編曲を発表しないと意味が無い メンバーの真剣な取り組み 各バンドの卒業ライブでの聴衆を魅了するレベルを期待 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な演奏・・・20% 卒業ライブでの演奏・・・20% 授業への取り組む姿勢・・・60% を総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	キーボード実習Ⅱ	科 目 分 類	独自 / 共通		
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	工藤 さち子	実 務 経 験	楽器メーカーの音楽講師として、ピアノ・エレクトーンを指導、その後プレイヤーとして活動。現在はボーカル、各種楽器を幅広く指導する音楽教室を経営。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽にとって最も必要な楽器と言うべきキーボード(ピアノ)演奏をレベルアップさせ音楽活動を積極的にさせる ・コンピュータミュージックに欠かせない「打ち込み」をスムーズにできるようレベルアップさせる ・卒業ライブ、バンドアンサンブルでの演奏レベルアップ 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・弾けない生徒もある程度の演奏能力を持たせる ・経験者は更なるレベルアップ ・「打ち込み」の作業効率アップ ・卒業ライブでの演奏能力アップ 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	1年次の演奏技術、知識経験				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	・音階 コード 楽譜による演奏 アドリブ			
	10	・各自選んだ曲の演奏 個人の演奏能力アップ			
	8	・バンドのキーボード奏者養成 アンサンブル			
	10	卒業ライブ対策 アンサンブル			
計	38				
使 用 教 材	・一般的な楽譜(ポピュラー中心) ・設備キーボード				
履 修 上 の 意 注	・気長にあせらず演奏能力を高めさせる ・授業時間外の練習の重要性 ・卒業ライブのレベルアップに繋げる				
成 績 評 価 の 方 法	・定期的な演奏試験・・・80% ・授業への取り組み姿勢・・・20%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	ヴォイストレーニングⅡ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	高橋 寿和	実 務 経 験	ボーカリストとして活躍、自治体行政機関の講師、音楽教室主任講師、プロアーティスト育成機関トレーナーとしても活躍。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員 歌う事によっての積極性の向上 又高度な聴音力の実力を養う				
到 達 目 標	・楽器演奏以上に重要な歌う力を持つ ソロボーカリストを目指す バンドでのコーラス要員 歌う事によっての積極性の向上				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	・ある程度の読譜力 音楽理論 出来れば楽器演奏				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		<p><毎時実施> ソルフエージュ(視唱 イヤートレーニング) ヴォイストレーニング 歌唱力アップ コーラス 耳コピー</p> <p>※ 1～7項目は毎時実施で習得、項目A・B中でも実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胸式呼吸・腹式呼吸の使い方 2 地声と裏声の使い方の違い 3 声量の上げ方、ロングトーンの伸ばし方 4 声帯の筋肉組織の仕組み 5 甲状軟骨、輪状軟骨の筋力トレーニング 6 口腔や舌腔の筋力トレーニング 7 喉仏(喉頭蓋)や胸骨甲状筋のトレーニング <p>12 A 外国(英語)の曲を歌う 個人の歌唱力アップ(ヴォイストレーニングも含む)</p> <p>20 B コーラス</p> <p>6 3 卒業ライブ対策</p> <p>計 38</p>			
使 用 教 材	・ボカルトレーニング用テキスト ・キーボード ギターなどの楽器 ・ミキサーなどの音響機材				
履 修 上 の 注 意	・声を出すことに消極的な生徒への対策 ・遊びと錯覚する可能性に対しての真剣な取り組み ・卒業ライブのレベルアップを期待				
成 績 評 価 の 方 法	・定期的試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	音響実習Ⅱ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	白鳥 徹 村山 秀樹	実 務 経 験	楽器メーカーのデジタル機器インストラクターとして、各種セミナー、講演会等で活躍。独立後は楽曲提供や音響技術者として活動。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> CD製作に必要な知識を身につける。 ProToolsの操作を身につける。 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ステレオソースのレコーディングが行えるようにする。 マルチトラックレコーディングが行えるようにする。 ProToolsを使用した編集を行えるようにする。 				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	6	レコーディングの基本知識を習得する。 マルチトラックレコーディングの知識を習得する。			
	32	ProTools実習 教室機材説明 ProToolsの基本操作 DTMデータの録音 マイクを使った録音 マルチトラック録音 CD製作			
計	38				
使 用 教 材	DTM/DAWソフト、音源 ProTools マイクロフォン オーディオインターフェース デジタル・アナログミキサー その他音響機器				
履 修 上 の 意 注	卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック				
コ ー ス 名					
科 目 名	ビジネススキルトレーニングⅡ			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	村山秀樹	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・MOS検定 Word, Excel, PowerPOINTの合格を目指す ・実社会で活躍する際必ず必要になるであろう表計算ソフト、ワープロソフト、プレゼンソフトが出来るようにする 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標は、MOS Word Excel PowerPOINT合格 ・Word Excel PowerPOINTの基本的な操作、知識の習得 				
目 標 資 格	、MOS Word Excel PowerPOINT				
前 提 知 識	タイピング能力				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	28	Word ・文書の書式設定と管理			
	4	Excel ・データとコンテンツの作成			
	10	・データとコンテンツの書式設定			
	6	・ブックの管理			
	8	・データの分析			
	10	・グループ作業			
計	76	PowerPOINT ・各自の進捗状況に応じ修得			
使 用 教 材	・MOS検定対応 Microsoft Office Specialist Word /Excel/PowerPOINT				
履 修 上 の 意 注	・合格を目指す強い意志のもと学習すること				
成 績 評 価 の 方 法	・定期考査・・・70% ・授業時間の取り組み態度・・・30%で総合的に判断				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	デジタルミュージック科				
コ ー ス 名					
科 目 名	専攻実習			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	2	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	工藤 さち子 桜井 力男 高橋 寿和 青木 大志 白鳥 徹	実 務 経 験	楽器メーカーの音楽講師として、ピアノ・エレクトーンを指導、その後プレイヤーとして活動。現在はボーカル、各種楽器を幅広く指導する音楽教室を経営。これらの経験を活かし実践的な教育を行う。		
目 的 / 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータミュージックを作るうえで更なるレベルアップを目指し、楽器(ギター・ベース・ドラム・キーボード)や歌入れ(ヴォイスレコーディング)音響(音響技術)を前期3科目、後期残り3科目を各自が3科目から1科目以上選択(複数及び全科目選択可)する ・各科目毎に各自の1年時の実力及び2年時の実習を踏まえ個人毎の高度なレベルを得る。 ・各科目毎に各自の1年時の実力及び2年時の実習を踏まえ個人毎の実習内容を設定 				
到 達 目 標	・各教科ごとに1年時、2年時にカリキュラムで培う技術・知識よりワンランクの上のレベルの実力をつける。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画 計	コマ数	授 業 内 容			
	3	・各自の現在の知識・技術確認			
	2	・各自の現在の知識・技術を踏まえ個々に合った実習内容説明			
	33	・各自の進捗状況に合わせ各教科実習			
計	38				
使 用 教 材	・DTMソフト、音源 ProTools マイクロフォン ギター ベース キーボード ドラム 音響機器				
履 修 上 の 意 注	・卒業CD制作においてイメージ通りの音の表現が出るよう根気よく取り組むこと				
成 績 評 価 の 方 法	・定期的な実技試験・・・70% ・授業への取り組む姿勢・・・30%などを中心に総合的に評価する				